

文化財だより

第17号

もくじ

誌上文化財めぐり	1
指定文化財紹介	7
稲井水沼地区の板碑分布調査報告	11
旧町名表示石柱設置事業	24
文化財標柱設置事業	25

石巻市教育委員会

[誌上文化財めぐり]

歩いてみませんか…

ふるさとの文化財

よく晴れた日曜の朝は、身も心もさわやかになるもの。遠くへ行くのもいいけれど、たまには家族そろって石巻の歴史を見て歩くのもいいんじゃないですか？

今朝は、ちょっとドライブがてらに福井地区の文化財を歩いてみましょう。ピクニック気分でお弁当をもつて、いつでも車のペターを目指す。

まずは北橋町を目指して車を走らせてみましょう。悠久と流れる北上川を渡ると、住宅街が途切れてい水田と緑の山々が見えます。福井地区は文化財の宝庫。あちこちに古代のロマンが眠っています。その手始めは「南境貝塚」。車は「ウマッコ山」を左手にながめながら駛野川方面へと進んで行きます。小高い馬の背状の上り坂にさしかかると、その頂上が河北町との境界線。そしてその一番が南境貝塚です。

① 南境貝塚

縄文時代の貝塚で、縄文時代の各時期を判別する目安となる土器型式「南境式土器」の出土した貝塚です。土器他にも石器、骨角器、縄文人の人骨が発見され、全国的に注目を集めました。しかし、残念なことに昭和四十六年、開田工事の為大部分消滅してしまいました。今は田の中に若干の土器片を

見ることができます。



▶ 南境貝塚



◀ 南境貝塚跡（中森杉林中に段築が跡かれている）

② 南境館跡

「館」とは、中世の豪族の屋敷、あるいは戦闘時の防衛施設です。敵が攻めにくいうように「空堀（からぼり）」を掘つたり、「土塁（どりい）」という土手状の土盛りを築いています。この南境館跡は、葛西氏の邸宅、大瓜玄蕃が造つたとい伝えられています。

少し戻れましたか？まだ丈夫。さあ車は更に福井の奥へ進んで行きます。車は大瓜部落にさしかかりました。道の左側に古い石碑が沢山建っているのが見えますね。何でしょう。

③ 湯瀬山龍洞院

圓山は葛西氏第十五代晴風の叔父で、ある文豪和尚で、その関係から、ここには葛西清重が京都から持ち帰ったという延命地蔵尊像や、葛西家から贈られたという市指定文化財の「葛西帳」が保存されています。

車をもう一度石巻へ向けましょう。二三叉路が左に見えできます。そこに見える杉林が「南境館跡」。登り口に標柱が建っています。高い山ではありません。

車を降りて登ってみましょう。



◀ 青崎板碑群

④ 寺崎板碑群

板碑（いたび）とは、中世の石でできた卒塔婆（そとうば）で、中世の状況を知る為の貴重な資料です。

右に田園風景、左に緑の山、のどかな景色に囲まれて、思わず深呼吸をひとつ。そうこうするうちに、目の前に田んぼに突き立った小高い山が迫ってきました。これが「鶯の巣館跡」です。

⑤ 鶯の巣館跡

石巻市内最大の館跡ですが、ここは館というより、「城」と呼ぶにふさわしい本格的な縄張り（城の地割り、構造のこと）を持つています。

山頂部に本丸、そして東に向かって二の丸、三の丸が築かれ、土塁や空堀

◆ 鶯の巣館跡



⑥ 高木古館

高木四郎右衛門という人の居館と伝えられています。山頂には本丸と、それを取り巻く役郭（斜面を削つて階段状にした所）、土塁、空堀が殆んど完全に残っています。東と西に急斜面があり、この地方でも有数の要害堅固な館と言えます。

高木西のバス停から、ちょっとと部落内に入つてみましょう。沢沿いに山に向つて登つてゆくと、小さな觀音堂があります。ここに沢山の板碑があります。

⑦ 観音堂板碑群

石巻地方には福井石でできた板碑が多くありますが、ここ觀音堂には約百基の板碑があり、石巻市内でも最大規模の板碑群です。中には、市内で初めて見つかった圓像碑（地蔵の図）や、奇妙な板碑もあります。

さて、地蔵板碑や三本足のカラスの碑

が形良く配置されており、東側斜面にられます。

もはっきりと見えます。館主は、平小三郎と地元では伝えられています。

鶯の巣館跡を迂回する道を高木方面へと走つていくと、やがて人家のない所に出ます。鶯の巣館跡と同じ丘陵にある「高木古館」が左手の山の上にあります。



⑧ 水沼窯跡

安楽寺の北東に見える赤土の崖面に、陶器の窯が七基程発見され、ここから洞美半島（愛知県）の特産とされている中世の「製瓦拂文（けさだすきもん）」の土器が発見され、全国の注目を集めました。

車は静かな山合を抜け、左手に福井平野を望みながら真野地区へと進んで行きます。ここには、有名な十一面觀音像のある長谷寺があり、萱原伝説や義経伝説など、いにしえのロマンが香る所です。

⑨ 水沼館跡

ここは中世の遺跡の宝庫で、水沼館跡、安樂寺跡と板碑群、水沼窯跡などが集中しています。これが市の指定天然記念物、吉祥寺の大イチヨウ（⑧）で、市内最大級の大木です。中には、市内で初めて見つかった圓像碑（地蔵の図）や、三本足のカラスとウサギの図という、奇妙な板碑もあります。

さて、地蔵板碑や三本足のカラスの碑

事の要となる重要な館であったと考えられます。

安楽寺は、水沼部落を東西に分けるように伸びる細長い丘の基部にあつた

中世の寺院跡で、板碑や一字一石経（石に字づつ経文を書いたもの）が発見されています。近くの水沼館跡との関連が注目されています。

⑩ 安楽寺跡と板碑群

藤原秀衡によつて勧請された寺と伝えられ、この地方随一の古刹です。特に觀音堂には十一面觀音像が安置されており、源義経出陣の時必勝祈願をしましたといふ伝えられ、義経が兜をかけた「かぶとかけ松」という名木もありましたが、今は枯死してしまいました。

(3) 長谷寺の裏山に、山門の前の池に沢山の葦が生えていました。これが「片葉の葦」といわれ、古くから、「都を惑つてその方向にばかりをつける」と、歌枕に使われました。

露わけむ秋の朝氣は遠からで
都は幾日まののかやはら
藤原 定家

長谷寺のある日向地区の対岸に見えるのは小慶館跡(14)で、葛西清重が石巻に入る前に仮に住んだ館と伝えられています。それらを後にして、車は一路沼津へと進みます。

▶長谷寺観音堂（この中に十一面觀音像が安置されている。）



沼津部落の真中に横たわる細長い山、鶴が首を伸ばしたような形に見えます。この山全体が「鶴子坂跡」(15)で、源義家が安倍貞任と戦う為に造られたと伝えられています。そして、その東端にある畠一帯が、国指定史跡「沼津貝塚」です。

▲沼津貝塚

古くから知られていた大貝塚で、鹿角製漁具の出土で有名です。多くの学者や研究者がこれを訪れ、幾つの論文に発表されました。考古学的研究にとってなくてはならない存在であったのです。

現在も、畠には沢山の貝殻がちらほ

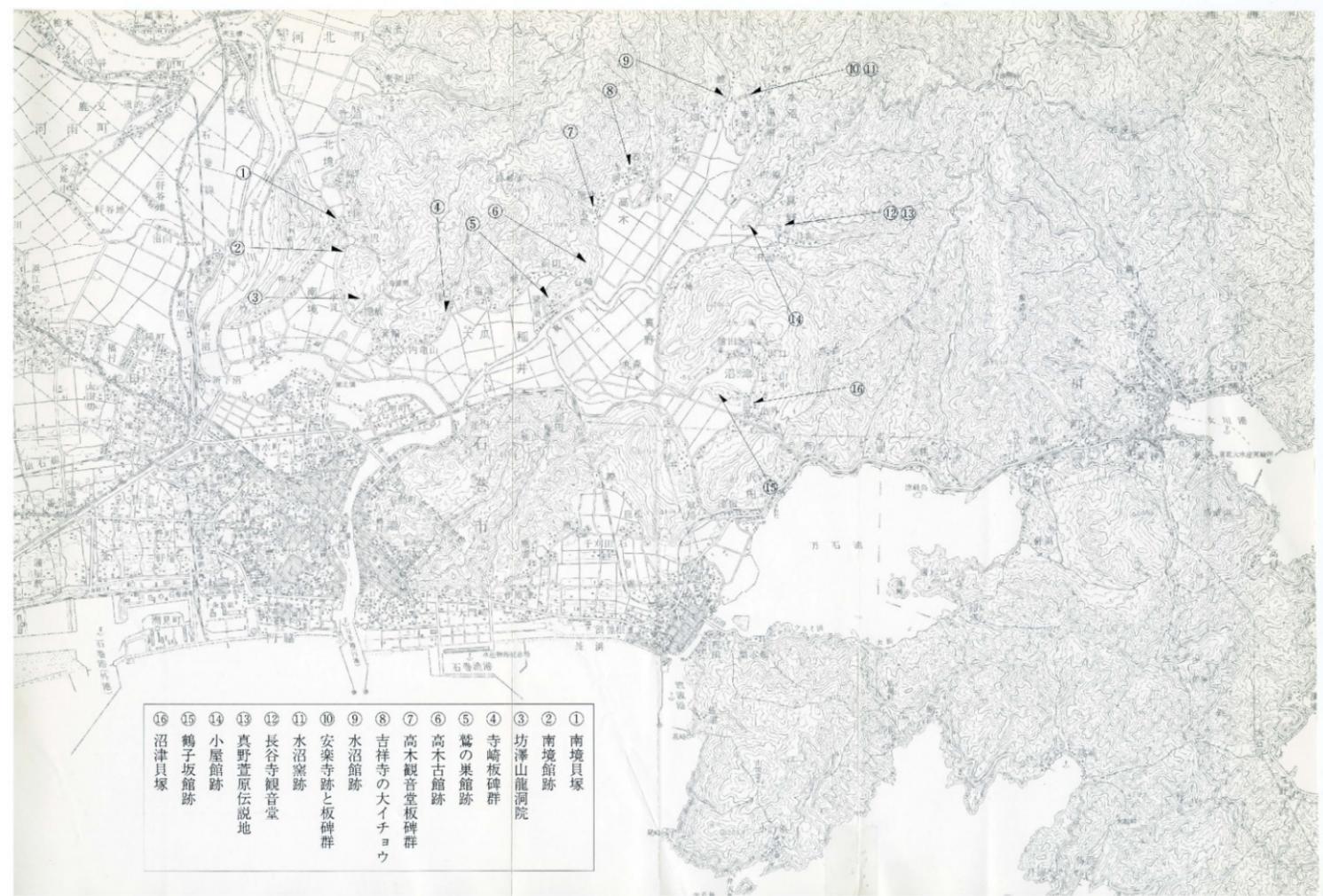


▲沼津貝塚（畠地に遺物が散布している。）

り、それと一緒に縄文土器のかけらや運の良い時には石器なども見つかることがあります。

そろそろ夕闇も迫ってきました。土蔵のかけらは見つかりましたか。そろそろ家路を急ぎましょうか……。

いかがでしたか、今回の「誌上文化めぐり」。今回ご案内した文化財はほんの一部で、この他にも色々な文化財があります。この次はもっと身近な、もっと充実した内容でお送りしたいと思います。



ご存知ですか?

わがまちの指定文化財!!

石巻市内には、全国的にも有名な「国指定史跡・沼津貝塚」など、学術的に貴重な文化財が数多くあり、その中でも重要なものが「指定文化財」として指定されています。石巻市の指定文化財には、国指定の文化財が二件、県指定の文化財が二件、市指定の文化財が十六件と、あわせて二十余件あります。これらの指定文化財は、いったいどんなものでしょうか。次に、その簡単な内容をご紹介しましょう。

〈国指定の文化財〉

▼重要文化財「岩版」（所有者）毛利伸氏・住吉町一時代：繩文時代 所在地：住吉町一

岩版とは、岩石に彫刻をほどこして作られた板状、あるいは縦長い階円形のものです。何のために、どのようにして使われたのかはっきりしませんが、護符つまり「お守り」として使われていたのではないかと考えられています。（昭和36年2月指定）

面へ進んで行くと、間もなく鶴が首を伸ばして横たわった形の山が右手に見えてきます。この山の基部に広がるタバコ畑が、有名な「沼津貝塚」です。

沼津貝塚は、大正から昭和にかけて、発掘されました。出土した遺物には沢山の土器や石器がありますが、特に骨角製（鹿の角や、動物の骨で作られたもの）の釣針や話などの道具類が、他に例のないほど多量に出土したこと、その優秀さで有名になり、昭和47年10月に国史跡として指定されました。

今でも、多くの学生や研究者が沼津貝塚を訪れています。

▼史跡「沼津貝塚」（所有者）浅野繁雄 氏外十一名 時代：縄文・弥生時代 所在地：沼津字出外

稲井中学校の前の県道を真直ぐ金山方



▲重要文化財「岩版」

▼沼津貝塚出土骨角器（毛利伸氏所有）



▼沼津貝塚全景



〔県指定の文化財〕

▼牡鹿法印神楽 (代表者) 桜谷守雄氏

湊字牧山

(神樂) は、神座遊 (かみくらあそび) の略で、神座の音楽の意味であるとも言われています。

牡鹿法印神樂は、沼津地区の有志によって伝承されてきたため、一船には沼津の法印神樂とも呼ばれ、その舞楽様式や舞台装置など、独特の郷土色を伝えています。(昭和46年3月指定)



▲牡鹿法印神楽

仁斗田貝塚

宮城県にある貝塚は、アサリ、ハマグリ、シジミといった砂浜に生息する貝が多いのですが、この仁斗田貝塚の貝はカキ・レイシ等の岩場に生息する貝が多く、県内でも珍しい貝塚で、このような貝塚を「岩漬性貝塚」と呼びます。

ここからは、縄文土器や石器、骨角器 (動物の骨や角で作った道具) が出土しています。(昭和50年4月指定)

仁斗田貝塚 (所有者) 阿部久氏他八名 時代: 縄文時代 所在地: 仁斗田港内

船が田代島の仁斗田港に入ると、右手上の崖の上に煙が広がっています。これが

吉野町一 (吉野町二) 時代: 中世 所在地: 吉野町一 (吉野町二)

多福院板碑群 (所有者) 三輪宗頼氏 時代: 中世 所在地: 吉野町一 (吉野町二)

板碑とは、主に鎌倉時代から室町時代にかけて造られた石製の墓碑です。古文書が残っていない中世の状況を知るための、ひとつ手掛りとして貴重なものですね。

この板碑の中には、中世石巻地方を支配した葛西氏のうち第八代葛西良清 (法名蓮阿)、第七代葛西良満 (法名蓮昇) の板碑も見られます。(昭和50年6月指定)

〔市指定の文化財〕

多福院板碑群 (所有者) 三輪宗頼氏 時代: 中世 所在地: 吉野町一 (吉野町二)

の関係文書です。幕末における海運史の解明、近世・近代にかけての商業資本の形勢を理解するうえで貴重なもので、この資料は、昭和61年7月に、所有者の平塚ツナさんのご好意により、石巻市に寄贈されました。(昭和51年6月昭和五十六年十二月指定)

昭和五十三年八月指定)

▼鳥屋神社奉納絵馬 「奥州石ノ巻図」 (所有者) 桜谷謙氏 時代: 近世 所在地: 羽黒町一

文化二年 (一八〇五)、石巻村中町の絵若衆によって奉納されたものです。黒地に金・銀・朱を使い蒔絵 (まきえ) 風

▼鳥屋神社奉納絵馬「奥州石ノ巻図」



江戸時代天保の頃を中心とした豪商平塚八太夫

に描かれた近世石巻の肖像で、その当時の石巻の繁栄ぶりが偲ばれます。

石巻市 時代: 近代 所在地: 中瀬公園 (長谷三吉衛門義一作) で、その作風・技術は素晴らしいものです。

昭和五十三年八月指定)

▼旧石巻ハリストス正教会 (所有者) 石巻市 時代: 近代 所在地: 中瀬公園 (長谷三吉衛門義一作) 明治十三年に建築されたもので、ハリ

ストス正教の木造教会としては日本最古、また教会建築としても、大浦天守堂に次ぐ古さです。

内部は、一階が集会所、二階が聖所と

なつており、二階天井にはドーム構法の
ゆるやかなアーチが見られます。

建物は上から見ると十字型をしていま
す。その十字型の頭の部分は、日本の八
角堂の手法がとられ、全国的にもその擬
洋風のユニークな構造で有名です。

初めは千石町にありましたが、昭和五
十三年六月の宮城県沖地震で崩壊の危機
にさらされました。が、若手建設業者によ
る「建青会」の協力で移築・復原された
ものです。(昭和五十五年十二月指定)

▼彫刻「潮音」(所有者:石巻市)

(在地:石巻文化センター)

高橋英吉氏の
代表作ともいえ
ます。

(昭和五十五年十二月指定)

なつております。

建物は上から見ると十字型をしていま
す。その十字型の頭の部分は、日本の八
角堂の手法がとられ、全国的にもその擬
洋風のユニークな構造で有名です。

初めは千石町にありました。が、昭和五
十三年六月の宮城県沖地震で崩壊の危機
にさらされました。が、若手建設業者によ
る「建青会」の協力で移築・復原された
ものです。(昭和五十五年十二月指定)

▼吉祥寺の大イチャウ

(所有者:高橋英吉氏)

英吉氏は、戦時色濃い中でも芸術活動
を続け、天才彫刻家としてその名声を高
めました。しかし、昭和十年にガダルカ
ナル島で戦死。三十一才の若さでした。

(昭和五十五年十二月指定)

品です。

英吉氏は、戦時色濃い中でも芸術活動
を続け、天才彫刻家としてその名声を高
めました。しかし、昭和十年にガダルカ
ナル島で戦死。三十一才の若さでした。

▲旧石巻ハリストス正教会

英吉氏は、戦時色濃い中でも芸術活動
を続け、天才彫刻家としてその名声を高
めました。しかし、昭和十年にガダルカ
ナル島で戦死。三十一才の若さでした。

英吉氏は、戦時色濃い中でも芸術活動
を続け、天才彫刻家としてその名声を高
めました。しかし、昭和十年にガダルカ
ナル島で戦死。三十一才の若さでした。

▼葛西焼 (所有者:坊澤敏和氏)

(所在地:大瓜木櫻樹)

この葛西焼は、一般的に言われる秀衡
焼の一種です。三重入子の椀には、それ
ぞれ十二弁の菊、瀬波浜、源氏雲などの模
様がほどこされています。龍洞院を開いた文翁和尚は、葛西氏第
十五代晴風の叔父であったことから、葛
西氏から贈られたものと伝えられ、その
五月指定

▼彫刻「黒潮開日」(所有者:高橋英吉)

(所在地:石巻文化七

先に紹介した「潮音」と同じ高橋英吉
氏の作品で、「海を主題とする三部作」
のうち、一番最初に制作された作品です。
昭和十三年文展に入選し、「天才彫刻家
出現」と、当時の美術界を騒がせまし
た。

制作年代も室町時代末期から桃山時代と
推定されています。(昭和五十六年五月
指定)

制作年代も室町時代末期から桃山時代と
推定されています。(昭和五十六年五月
指定)



▼高橋英吉作「潮音」

▼渡波獅子風流 (代表者:千田豈)

正月になると、渡波の町中にお囃が響
きわたります。これが渡波獅子風流です。

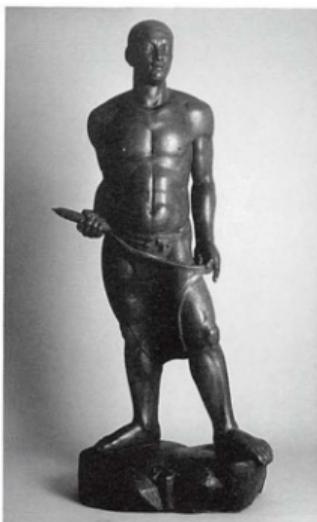
正月になると、渡波の町中にお囃が響
きわたります。これが渡波獅子風流です。

鎌倉時代に根岸部落を中心に行はれていたと伝えられています。初めは氏神の祭典に奉じられていたものが、やがて松の内に各戸を訪れてその家の安全、繁栄を祈願する行事になりました。

今子ども会、青年団、保存会の皆さんによつて保存されています。(昭和五十六年十二月指定)

塔他四件の石巻市指定文化財につきましては、文化財だより第十六号をご覧ください。
紹介しました指定文化財は、すべて先人が遺してくれた大切な私達の財産です。いま生きる私達の手で大切にして、後世に伝えていきましょう。

▼高橋英吉作「漁夫像」



▼高橋英吉作「黒潮朝日」



▼彫刻「漁夫像」
(所有者:石巻市
所在地:石巻文化センター)

高橋英吉氏の「海を主題とする三部作」のうち、一番最後の作品です。漁具を手にした若い漁師の利々しい姿が、見者にさわやかな感動を与えてくれます。

なお、昨年度指定された牧山の宝鏡印

※お願ひ
お預けいたしました文化財は、所有者の皆さんのご好意と努力によつて大切に保管されています。見学する方は必ず所有者に連絡をとり、

迷惑をかけないようにして下さい。
また、所有者の都合で見学できない場合もあります。

昭和六十一年度 文化財調査報告

稲井水沼地区の板碑分布調査

※調査期間

昭和六十一年七月十九日

～二十四日

内廿貫九十六文 新田
九貫五百五十三文
内六百三十文 新田
八貫六百九文 茶畠

※補助調査員

佐藤雄一 (宮城県立石巻高等学校)

※調査員

今村 札美 阿部 信子

佐藤真由美 及川 順子

(石巻市立女子商業高等学校)

1. 調査区域の概要

本年度の調査地域である水沼地区は石巻市の北部に位置し、稲井地区を南流する真野川の上流域で、標高四六七七mの上品山を北端として、桃生郡河北町と隣接し、東側は牡鹿郡女川町と接する。集落の南側は水田地帯になっている。板塁は東光山安樂寺跡と伝える寺内を中心には散在している。また北面斜面には平安末期と推定される窓跡が確認され中世期文化とのかかわりをうかがわせる。

水沼地区の中世の状況を示す史料は見当らないが、江戸期の「安永風土記書」にはおおよそ次のような記述がある。

一 石塔 長九尺 横三尺 厚さ六寸

一 石塔 長九尺 横三尺 厚さ六寸

一 石塔 長九尺 横三尺 厚さ六寸

牡鹿郡水沼村 小名 西沢 寺内 小龜田

高七拾三貫百三十六文 新田

内廿貫七百三十四文 新田

田代 六十三貫五百八十五文

一、人頭 百三人 内寺老ヶ寺
一、人數 七百七拾人 内男三百九十三人
一、馬數 百三疋 女三百七十七人
一、阿弥陀堂 おおよそ以上のようにあるが、寺老ヶ寺とは龜山地区にある龜向山慈院のことで現存している。板碑とのかかわりでは、佛閣の部に次のような記述がある。

(上略)

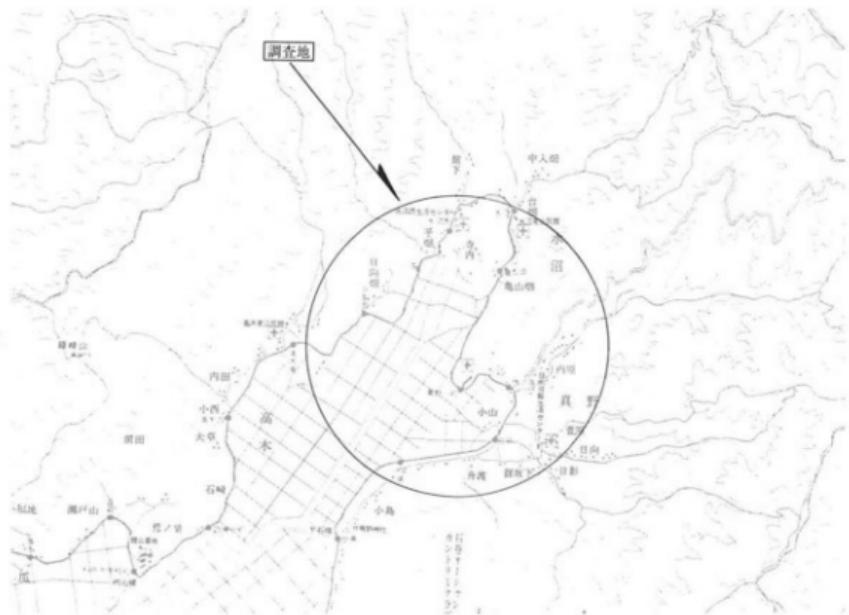
一、阿弥陀堂

寺老ヶ寺は龜山地区にある龜向山慈院のことで現存している。板碑とのかかわりでは、佛閣の部に次のような記述がある。

一、阿弥陀堂 おおよそ以上のようにあるが、寺老ヶ寺とは龜山地区にある龜向山慈院のことで現存している。板碑とのかかわりでは、佛閣の部に次のような記述がある。

寺老ヶ寺は龜山地区にある龜向山慈院のことで現存している。板碑とのかかわりでは、佛閣の部に次のような記述がある。

一、阿弥陀堂 おおよそ以上のようにあるが、寺老ヶ寺とは龜山地区にある龜向山慈院のことで現存している。板碑とのかかわりでは、佛閣の部に次のような記述がある。



とある。更に中世期とのかかわりのある記述として、

一古館 高式拾四問

横三十六間
長六十六間

但水沼上野殿居城之由申伝云

安永風土記書上の以上のような記述から考察しても往古の水沼地区は中世期の歴史と重要なかかわりがあることは明らかであるように思える。

2. 板碑造立の概要

a. 板碑造立地区

水沼地区は江戸期の旧水沼村であり、

石巻市の北端に位置するといつてよい。

また水沼地区には式内社と伝えられる伊

去波夜和氣命神社があり、深山鬼現とし

て地区住民の信仰を集めている。さらに

神社参道の右子には文殊院不動堂が現存

し、嘉元三年(一一三〇五)の碑があり、

水沼地区的生活圈の広さを教えてくれる。

水沼地区は西から小多田、平畠、館下、

中入畠、寺内、龜山の集落が上品山の麓

に扇形にひろがっている。集落の南側は

全面が水田である。

これら六つの集落のうち板碑造立が確

認されていないのは中入畠だけであり、

その他の五つの集落には、数のばらつきはあるが、それぞれ特色のある板碑が造

立されている。

これら板碑の建立されている五つの地

区で、数量的にも内容的にも、水沼の板

碑造立の中心と推定されるのは、東光山

安樂寺跡と思われる館下地区の板碑群で

ある。

現在この板碑群は安樂寺跡の東端と

並んで道路脇に移動されているが、

そこから少し北寄りの水田の中に一部で

はあるが原位置を保つ状況で保存されて

いる。この東光山安樂寺とかかわりあい

をもつと思われる板碑群は紀年銘の明確

なものを中心にして考察すれば弘安六年

(一二八三) を上限とし、永享三年(一

四三二) を下限とした広がりを見せて

いる。最大の大きさは正和元年(一一三二三)

のア(駒藏界大日)を種子にした大型の

ものである。石巻地区における鎌倉期の

板碑は大型で、時代が下るにしたがって

小型化していくという傾向は水沼地区で

も同じように觀察された。東光山安樂寺

跡の背後には水沼上の居館跡と伝え

られる比較的整った形状で保存されてい

る水沼跡があることも板碑とのかかわ

りで注意されてよいであろう。

中入畠跡とのかかわりで板碑を考察す

るとすれば小多田地区にある水沼古跡跡

と伝えられる斜面で確認された貞和四

年(一一四八南北朝)の大型板碑も注意

されなければならないだろう。これは南北朝期に入つても20²を超す大型板碑が

造立されていたことと、この板碑はほん

原位置を保つていると推定されることで

b. 板碑造立数について

水沼地区的板碑について

風土記書

上には前述したように(前略)東光山安樂寺と申す場所、而且弘安後石塔板多く得

て云々とあり、また「名石」の部に「弁

慶殿難石」とか「弁慶殿□腰掛石」あ

表(1) 水沼地区的板碑造立状況

地区	小多田	平畠	寺内	館下	龜山	合計
時代						
鎌倉	1	1		5		7
南北朝	2			6		8
室町	2		2	2	1	7
明	2			9	2	13
合計	7	1	2	22	3	35

*地区名については国土地理発行1/25-の地形図記載のもののもとにしている。

文庫院、応長元年七月日、外十数基ありと記されているだけである。

今回の調査で確認された板碑総数は断

碑も含めて三十五基である。最も多い地

区は東光山安樂寺を中心とした館下地区

の二十二基が確認された。次いで

多いのは小多田地区的七基であつた

多かつたのは小多田地区的七基であつた

が、これは觀音堂、水沼古跡の大形板

碑を含むものであり、小多田地区的考察

には重要な手掛かりをあたえてくれるこ

とにになるのではないか。

②時代区分と板碑造立の形態

水沼地区の板碑数は三十五基のうち紀

年銘の確認できるものは表(1)に見られる

よう、二十二基であり、鎌倉期、南北

朝期、室町期ともにはほぼ同数で、これか

らは造立数による時代的な特徴を引き出

すこととはできなかった。しかし、中入畠

および龜山の板碑でNo.29、No.30、No.35の

よう、板碑としての内容を整えながら無

くあるが原位置を保つ状況で保存されて

いる。東光山安樂寺とかかわりあい

の「石塔長二尺、横三尺、厚六寸」

といった記述があるだけで、古碑の全容

まったく記述されていない。宮城県の

板碑をまとめた宮城県史13金石篇には一

年号のものが造立され、東光山

安樂寺跡の板碑に、No.19、No.22、No.24のよ

うに下部が欠損したりして年号が不明になつていても、種子の彫り方から鎌倉期のものと推定することができるもの

があることなどを考へると、より深い考

察を加えれば、「層はつきりすることは

可能であると思われる。このような不分

明なところが多いと思われる水沼地区的

板碑群ではあるが、若干の考察をしてみ

たいと思う。

①時代区分と板碑の形態

先に全体考察の中でも記しているこ

とであるが、板碑の形態は初發期の板

碑はほど大型で、時代が下がるにしたが

つて小型化していくという形式上の一

般的な推移は水沼地区でも同様のよう

に観察された。しかし、小多田地区的水

沼古跡の斜面で造立されて、原位置

を保つてゐると思われる貞和二年碑、

および觀音堂前にある応長元年碑は、

ともに20²以上もある大型の板碑であ

り、もし、紀年銘が不明であつたとし

たらば、鎌倉期のものと推定され

ても不思議ではないと思われるほどのも

のである。

③時代区分による種子の変化と供養内

容

水沼地区における種子の表わし方を

時代区分と組み合わせてみると表(2)の

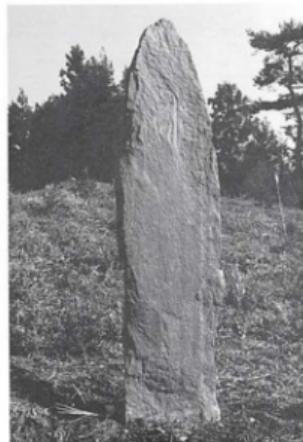
ようになる。

表(2) 水沼地区の種子と時代区分

種子	キ リ ー ア リ ー 阿 弥 陀 ク ー	サ ー 観 音 ー テ ー	サ ー 勢 至 ー ク ー	ア ー 胎 藏 界 大 日 ー ク ー	バ ー 金 剛 界 大 日 ー ク ー	カ ー 地 藏 ー ク ー	バ ー 秋 蓮 ー ク ー	バ ー 藥 師 ー ク ー	カ ー 不 動 ー ク ー	タ ラ ー 虚空 藏 ー ク ー	五 輪 塔 ー ク ー	不 明 ー ク ー
時代												
鎌倉	2					1					1	1 1 1 1 7
南北朝	1				1	1	2					1 5
室町	1	2	1	1		1				1		7
不明	1	1	1					1	1	2	2	2 11
計	4	1	3	2	2	1	3	1	2	2	3	1 1 1 3 30



▲No 1 嘉元三年碑



▲No 3 嘉和二十二年碑

総数三十五基のうち、種子を確認できるものが三十基であるが、時代を確定できないものが十一基もあり、残りの十九基も、鎌倉期七期、南北朝五基、室町期七基とほぼ均等に分散しており、各時代を通じて特徴を把握することはできなかつた。強いて特徴的なことをあげるとすれば、室町期には阿弥陀、勢至菩薩、胎藏界大日、金剛界大日、觀音、虚空藏など多様になっていることであろうか。

また、忌日と主尊種子との関係をみて

みると、室町期の三基は五七日忌の地蔵、

三年忌の阿弥陀、三十三年忌の虚空藏はそれぞれ対応しているが、なかには、三

十一年忌が般若地であったり、十七年忌の

主尊種子が金剛界大日(バーン)であつたりして統一性を失っているようにも思

える。さらには鎌倉期のものでは、三十

三年忌が金剛界大日(パン)であつたりして

大仏、高木地区においては、忌日と主尊種

子との関係は、ほぼ統一された現われ方

をしていたのであるが、水沼地区においては、忌日と主尊種子の合致するものが

あるかと思えば、同時代においても忌日と主尊種子が一致しないものがあるなど、

十三思想から十三仏信仰にいたる変化の過程をさぐるために手振りになるかもし

れない。今後の課題であろう。

①嘉元三年碑 (No. 1)

d、特記すべき板碑

平畠地区にある文殊院不動堂前には文殊院不動堂は現存し、鈴木晚氏のものと管理されている。この文殊院

不動堂は「風土記書上」には、深山大

権現宮の別當として位置づけられてお

り、「こないとう」ところの深山大権現宮

は文殊院不動堂の左脇を登つたところに現存する。「風土記書上」による深

山大権現宮は牡鹿十座の一つである伊

夫波夜氣命神社と伝えられており、

深山宮の額が掲げられている。「風土

記書上」による深山大権現宮の記載は次のようである。

一深山大権宮 別當本山流山伏宮在

家屋敷

但、御神体御長一寸金佛、縁記無

賢菩薩、ウン(馬頭観音)とあまり

みられない組合せであり、その形より方

は通常の薬研形よりも大きいことは變り

はないが、種子の書き方は他にみられない特徴がある。

②貞和二三年碑 (No. 3)

□□棲札、相見得□、但、開基□

文殊院

月相圓不申、別當代々先祖委相知

不申、古□所持御座跡、相知甲

分、榮深法印即ち當時迄十一代御座

跡

となり、榮深法印は文明十四壬寅一

四八(二)

正月十九日方寂としている。



▲ No 4 慶安元年碑



▲ No 11 正和元年碑

水沼古館跡登り口（中沢重信氏所有地）右側の斜面に、原位置を保っていると推定されるところに建立されている。南北朝期の碑であるが、2メートル30センチの大型板碑に属するものであり、南北朝初期にいたつても、鎌倉期における板碑作成の傾向が衰えることなく継承されていたことを物語るものではないだろうか。また、水沼古館跡に建立されていることを考えれば、中世武士団の板碑造立の風習のあり方を教えてくれているのかもしれない。

種子はキリーカ（阿弥陀）。偈は、「淨土教古佛之偈」である。

③ 慶安元年碑（No.4）

種子バーンク（金剛界大日）は高さ2メートル12センチの中間に悠然とおさまっており、前記貞和二年碑の二十年後に造立されたものであるが、この時期になつても鎌倉期の大型板碑の系譜が継続していることを確認できる。最大幅は七〇センチ、厚さ一〇センチ。

で、全体として薄い板状に加工されていると考えて差し支えないようである。

鉛文には右塔婆意趣とあり、この板碑が證公律師三十五日の供養のために草塔婆として建立されたことを表わしている。

造立者が證公律師の弟子であることも注目に値する。



▲ No 9 弘安六年碑

区における最古の碑である。この碑は「風土記書上」佛閣の部に

一阿弥陀堂。

但御印高作人相知申、縁起無御座。此所者東光山安樂寺と申寺場而弘安後石塔數多御座。右

寺場今西を寺内、東を寺中と申在

家御座。

とある弘安の碑であろう。

⑤ 正和元年碑（No.11）

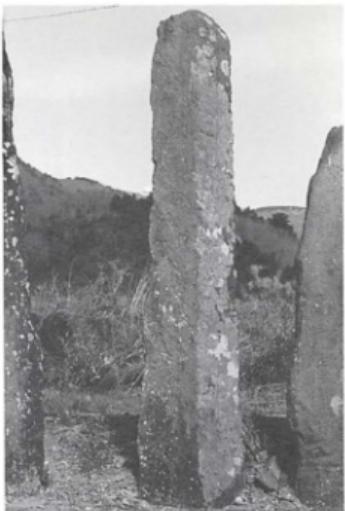
水沼地区最大の板碑である。種子はア（胎藏界大日）。彫り方は比較的残

いが、書き方に工夫がこらされておりそれが篆研磨の手法とよく合致し、

一種独特的な雰囲気をかもし出している。

この碑は「風土記書上」の名石の部に板碑の面を南面させ立っている。したがつて残念なことではあるが、原位置は不明である。

一石塔 長九尺
横三尺



▲No14貞和二年碑

厚六寸

但安樂寺阿弥陀堂後御座いの、弁慶

殿石塔、申傳、文字見分無御座いの

と記されている碑であろう。

同じく「風土記書上」に

一長石

但弁慶殿砾石、申傳いの

一腰懸石

但弁慶殿いの腰懸石と申傳いの

と別記されている二つのものは別のも

のである。

⑥貞和二年碑 (No.14)

種子はサ(觀音)、ウーン(金剛菩薩)と思われるが、上部に三脊宝珠をそなえている数少ない例である。また、「結衆敬白」の文字が示すように水沼地区唯一の結束板碑である。

この碑については、高橋克弥氏が、

「石巻市水沼所在の古碑群について」の論稿で、この碑を時衆碑であるとか、殿石塔、申傳、文字見分無御座いのと記されている碑であろう。

「石巻市水沼所在の古碑群について」の論稿で、この碑を時衆碑であるとか、殿石塔、申傳、文字見分無御座いのと記されている碑であろう。

同じく「風土記書上」に

一長石

但弁慶殿砾石、申傳いの

一腰懸石

但弁慶殿いの腰懸石と申傳いの

と別記されている二つのものは別のも

のである。

⑦無紀年の板碑三基 (No.29 No.30 No.35)

板碑は辛塔婆であり、忌日供養の主

尊を最上部に刻し、それにふさわしい

「偈」を種子の下に配し、中央に供養

した年月日(忌日)を記し、その両側

に辛塔婆造立のための銘文を記してあるのが、もともと整った板碑の形式である。特にいわゆる忌日を欠くという

が時衆碑であるということは一考を要することであると思う。

この碑は辛塔婆三基 (No.29 No.30 No.35) の三基は種子、偈、銘文が刻されてゐるが、紀年銘を刻するのに十分な余裕がありながらも、紀年銘を欠くといふ他に類例のない板碑である。幅は10cmと三基ともにほぼ同じくらいのものである。なぜ、板碑の内容を完全に備え

紀年銘を刻するだけの十分の余白を残しながら紀年銘だけを除いているのであろうか。これまでの石巻市内の調査でも見当らないことであるし、他の地域の調査報告でもみられないことなどでは、諸家に解明の糸口を教示していた

だきたいと思う。

以下、これら三基について若干の考察を考えてみることにする

No.29 No.35は共に栄蔵大押門の供養碑である。栄蔵大押門なる人物は他に史料で確かめることはできず、いまところまことに不明である。No.29は遠方

に辛塔婆造立のための供養であり、本地佛アーランク(悉・胎藏界大日)は忌日と本地佛は一致している。しかし、No.35は拓本および実際の碑から判断すると十一ヶ年の忌日の供養碑と判断されるが、十一ヶ年の忌日の供養とはこれも頗



▲無紀年板碑 (No.30・No.35)

例がないのではなかろうか。種子はパーンク(悉・金剛界大日)である。もし十一ヶ年が十三ヶ年であるとするならば、十三ヶ年の本地佛としては時期によつてはパーンクが用いられてゐるので、この碑の忌日と本地佛は一致することになる。とすれば、No.29 No.35の小型のものが各地區に散在している。しかし、ここに紹介するNo.29 No.30 No.35の三基は種子、偈、銘文が刻されてゐるが、紀年銘を刻するのに十分な余裕がありながらも、紀年銘を欠くといふ他に類例のない板碑である。幅は10cmと三基ともにほぼ同じくらいのものである。なぜ、板碑の内容を完全に備え

紀年銘を刻するだけの十分の余白を残しながら紀年銘だけを除いているのであろうか。これまでの石巻市内の調査でも見当らないことであるし、他の地域の調査報告でもみられないことなどでは、諸家に解明の糸口を教示していただきたいと思う。

以下、これら三基について若干の考

察を考えてみることにする

No.29 No.35は共に栄蔵大押門の供養碑である。栄蔵大押門なる人物は他に史料で確かめることはできず、いまところまことに不明である。No.29は遠方

No.30の碑は淨空上座大祥忌の供養碑である。大祥忌の忌日は三回忌である。種子はキリーケ（森・阿弥陀）でなければならず、種子サク（森・勢至菩薩）は合致しないことになる。

⑧明徳三年・応永八年碑・No.31・No.32ともに龟向山龍泉院の間山塔近くの墓地にあるもので龍泉院とのかかわりを考えることができるものと思われる。



▲ No.31明徳三年碑



▲ No.32応永八年碑

No.30の碑は原位置を保っているものと推定されるが、応永八年碑はつい最近、墓地の改築によって移動されてしまった。その際、教育委員会には連絡されることがなかったので、地下道構についての手掛りは、まったく失われてしまった。明徳三年碑は三十五日の供養で、種子はカ（五・地藏菩薩）、は次のようなものである。およよそ表わされた年代順に記してあるとともに、忌日、種子が判明しているものは一緒に記してある。

明徳三年碑は原位置を保っているものと推定されるが、応永八年碑はつい最近、墓地の改築によって移動されてしまった。その際、教育委員会には連絡されることがなかったので、地下道構についての手掛りは、まったく失われてしまつた。明徳三年碑は三十五日の供養で、種子はカ（五・地藏菩薩）、

種子が判明しているものは一緒に記してある。

①十方三世仏
一切諸菩薩
八方諸聖教
皆是阿彌陀

（貞治三年碑・No.3・種子）
出典：明徳三年碑

②十方佛上中
唯一來法
無亦無三
品第一

（正智
（永泰五年碑・No.18・種子）
出典：明徳五年碑

③□正智
大虛空藏
即是正覺
法性□本
（年代不明・No.19・種子）
出典：法華經譬喻品

④今此三界
皆是我有
其中衆生
悉是吾子
（年代不明・No.35・種子）
出典：金剛界大日

以上、水沼地区の偈は五例にすぎないが、④の法華經譬喻品第三を出典とする偈は、No.30・No.35の年代不明の二基に刻されているものであり、種子はそれぞれ勢至菩薩と金剛界大日である。これらの組合せに何らかの意味があるのだろうか。

觀誦無明除
一字含千理
即身證法如
（年代不明・No.29・種子）
胎藏界大日

3. 板碑作成上の問題点

板碑作成上の問題点について、特記すべきことのないものであるが、次の点については、はるかに推測できるのではないかだろうか。すなわち、碑の前面は何らの調整がなされていることである。このことは、それぞれの実測図をこちらになつていただければ納得してもらえるのではないかと思つてゐる。このことは前年度の高木地区の調査においても確認されていることである。

4. 保存について

水沼地区的板碑は各地に散在しているが、それぞれの地区における保存状況は比較的良い。特に水沼地区的板碑造立の中心であったと推定される東光山安樂寺跡の板碑は教育委員会の配慮によつて一所に整理され、説明板も設置されている。あえて水沼地区的板碑保存の問題点を指摘するならば、中の煙の觀音堂前に放置されている無年号の

⑤真言不思議 出典：般若心經秘鍵

年代不明・No.35・種子）

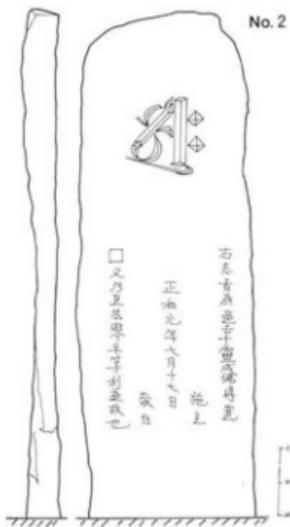
第三

（年代不明・No.19・種子）

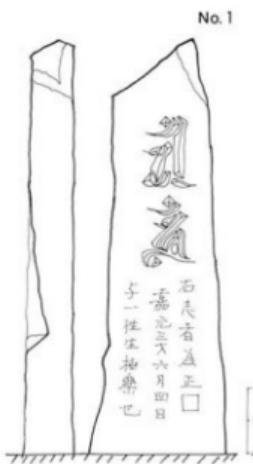
（年代不明・No.35・種子）

（年代不明・No.19・種子）

（年代不明・No.35・種子）



高さ：150cm 幅：52cm
厚さ：10cm

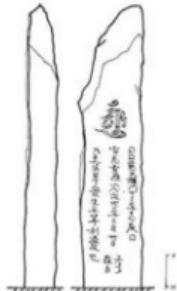


高さ：120cm 幅：40cm
厚さ：15cm

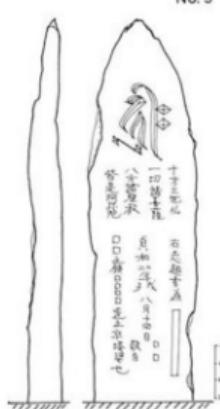
No. 29 No. 30の二基であろう。この二基は本文中でも考察しているように、種子、傳、銘文を備えており、板碑としての内容が完全に整っているにもかかわらず、年代だけが刻されていないという他に類例のないものである。この二基は簡単に移動できるような状態で放置されているので、小多田地区（以下材質は全て粘板岩）

早急に原位置に固定化するなどの処置を講じ今後の研究者のためにも、紛失することのないように配慮する必要があると思われる。

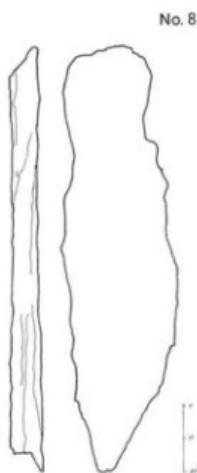
No. 5



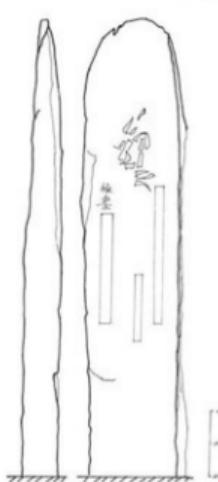
高さ：212cm 幅：70cm
厚さ：10cm



高さ：230cm 幅：63cm
厚さ：19cm



高さ：127cm 幅：33cm
厚さ：9cm



高さ：135cm 幅：29cm
厚さ：12cm



高さ：90cm 幅：23cm
厚さ：8cm



高さ：156cm 幅：53cm
厚さ：15cm

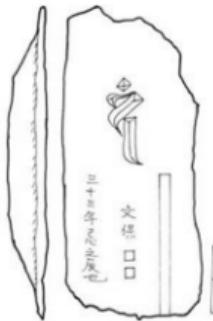
▼ 安楽寺跡の板碑



No.11



No.12



高さ：93cm 幅：39cm
厚さ：11cm

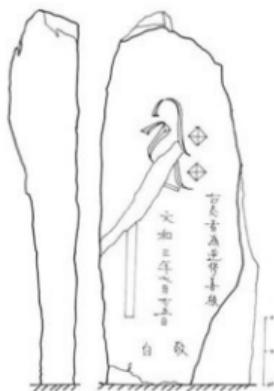
高さ：275cm 幅：95cm
厚さ：17cm

No.10



高さ：56cm 幅：43cm
厚さ：6cm

No.15



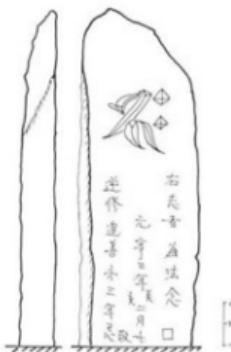
高さ：112cm 幅：47cm
厚さ：20cm

No.14



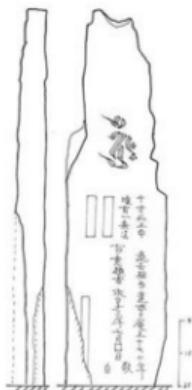
高さ：203cm 幅：42cm
厚さ：18cm

No.13



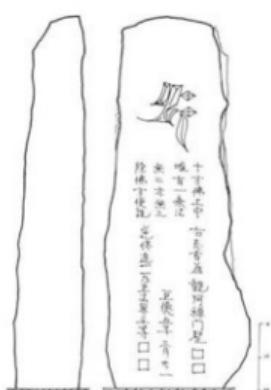
高さ：80cm 幅：26cm
厚さ：8cm

No.18



高さ：112cm 幅：30cm
厚さ：17cm

No.16



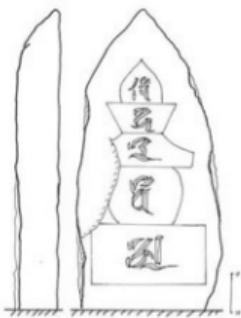
高さ：110cm 幅：42cm
厚さ：21cm

No.17



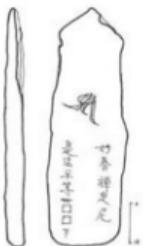
高さ：45cm 幅：36cm
厚さ：3.5cm

No.21



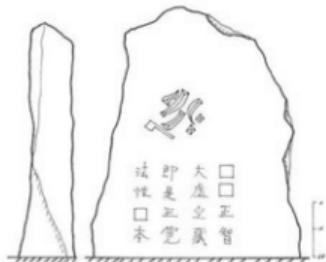
高さ：72cm 幅：33cm
厚さ：10cm

No.20



高さ：57cm 幅：18cm
厚さ：4cm

No.19

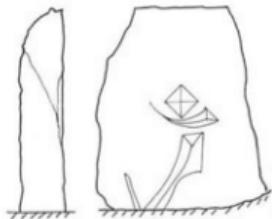


高さ：45cm 幅：37cm
厚さ：9cm

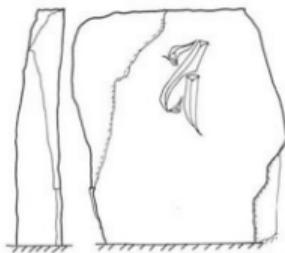
No.22

No.23

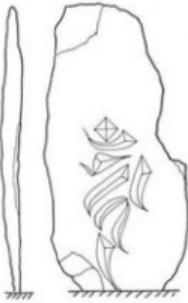
No.24



高さ：24cm 幅：18cm
厚さ：5cm



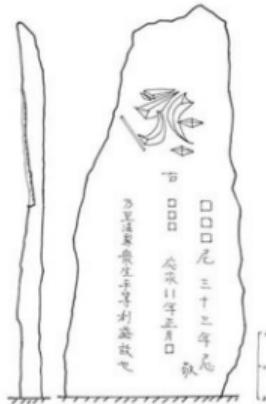
高さ：55cm 幅：46cm
厚さ：6cm



高さ：68cm 幅：32cm
厚さ：6cm

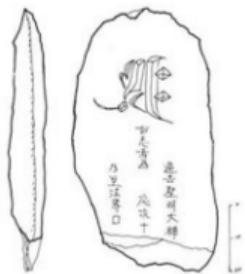
・館下(田の中にあり)

No.25

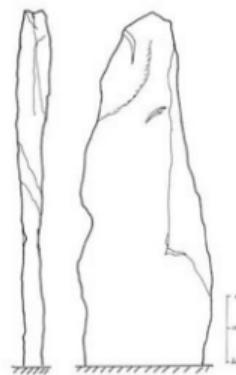


高さ：118cm 幅：53cm
厚さ：7cm

No.26



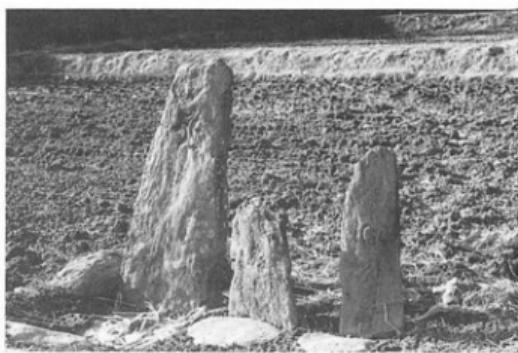
高さ：80cm 幅：42cm
厚さ：10cm



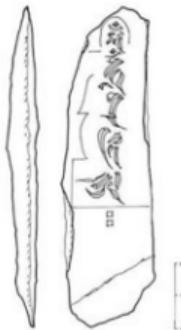
高さ：106cm 幅：37cm
厚さ：9cm

No.27

▼館下の田の中にある板碑



No.28



高さ：94cm 幅：28cm
厚さ：14cm

No.31

寺内（竜泉院墓地）



高さ：150cm 幅：63cm
厚さ：9.6cm

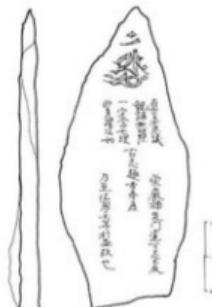
No.30



高さ：80cm 幅：37cm
厚さ：10cm

No.29

寺内（観音堂前）



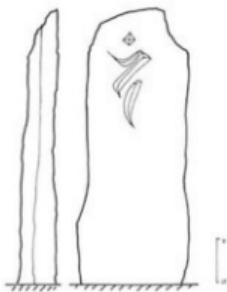
高さ：90cm 幅：38cm
厚さ：8cm

亀

山

No.32

No.34



高さ：65cm 幅：25cm
厚さ：9cm

No.33



高さ：38cm 幅：25cm
厚さ：8cm



高さ：215cm 幅：75cm
厚さ：16cm

No.35

▼水沼案跡（板碑との関連が注目される）



高さ：100cm 幅：40cm
厚さ：11cm

旧町名表示石柱設置事業

タ町名も文化財

由緒ある町名を後世に…

現在、日本各地で住居表示の変更が進められており、昔からの町名は次第にその姿を消しています。これは、「合理的な住居表示を…」という目的で昭和三十七年に制定された「住居表示に関する法律」によって、昭和三十八年から住居表示の変更が進められてきたためです。

石巻市においても、昭和四十年から新しい住居表示を実施し、「横町」「袋谷地」など、多くの町名が変更されました。

これまでの町名は、「道」や「通り」に面した一連の名前を一つの「町」としてとらえてきました。ところが新しい住居表示では、従来あまり交流の少なかつた、背中あわせの「区画（ブロック）」を単位とした「街区方式」といわれる方法です。

由緒ある「町名」は、それ自体が歴史的にもある、民俗学的にも、わたしたちのまちの姿を知り得る貴重な文化遺産であり、文化財であります。この文化財を後世に伝えていくことは、私達の大切な役割ではないでしょうか。

のことから石巻市教育委員会では、失われてゆく町名を後世に伝えよう、昭和五十六年度から「旧町名表示石柱設置事業」を実施しており、今年度も2ヶ所に設置いたしました。この事業は、地権者の方々のご好意と協力によって実

施されております。今後も、皆さんのご協力をお願いいたします。

▲昭和56年度設置▼

新田町 二 千石町 (石巻グランドホ

テル前)

渡波本町 二 渡波町三 (内海笑方前)

漆本町 二 漆町一 (漆幼稚園前)

▲昭和57年度設置▼

横町 二 千石町 (河北新報社前)

中町 二 中央二 (丸光石巻店前)

九軒町 二 門脇町二 (消防第三分団前)

立町 二 立町一 (振興相互銀行前)

面刺田 二 清水町一 (ニイスマビル前)

八ツ沢 二 泉町一 (八ツ沢緑地公園内)

昭和58年度設置▼

後町 二 後町一 (後町前)

後町 二 後町一 (西光寺前)

袋谷地 二 水明南一 (長林寺前)

本町 二 中央一 (水蔵寺参道入口)

聞かれる。

▲昭和62年度設置▼

本草園 双葉町 (双葉町公園内)

下野 (福島県) の郷士井上吉兵衛は江戸後期に石巻へ移住。漁船業で産毛なし、嘉永五年 (一八五二) 朝鮮人参の栽培に成功。全収穫を献納し続けて藩財政に寄与した。安政元年 (一八五四) 以降は、日和山、牧山ほか各所に松、杉、檜、漆など約六万本を植えて献納。文久二年

（一八六二）人工接ぎによる長十郎梨を開発、普及させるなどの功績を残した。

「本草園（本草は薬用動植物の総称）」は、彼が朝鮮人参を栽培した畠をさす地名である。



文化財標柱設置事業

文化財つてどこにあるの?!

石巻市内には沢山の文化財があります。

ところが、その多くは普通の畠だつたり

民家であつたり、と目立たないところに

あります。石巻市教育委員会では、この

ような遺跡をはじめとする文化財の主な場所を選定し、市民の皆さんにわかりやすくいように、毎年文化財標柱を設置しています。今年度は次の五本(建て替えを含む)を設置しました。

何かの折に皆さんの目に触れましたなら、立ち止まって見て下さい。そして、

文化財の大切さを理解していただか、そ

の保護・保存のためにご協力下さいま

ようにお願いいたします。

▲昭和62年度設置▽

平形館跡

標高百八〇㍍の山頂に築かれた中世

の城館。規模は小さいが、平場、空堀、

土塁が形よく配置された山城の典型的な例である。殆んど昔のまま保存され

ている数少ない館跡の一つである。館

主は不明だが、安倍貞任の居館であつたと言い伝えられている。

▼設置場所Ⅱ沢田字平形日影山

▼平形館跡

大和田館跡

館主不明。古文書等にはいっさい記録のない館跡である。しかし、頂部には不明瞭ながら一段に整地された平場

と、北・東側の杉林中には数段の段築

が築かれている。

▼設置場所Ⅱ根岸字坂上山

南境館跡

規模は小さいが、よくまとまった単郭式の中世城跡。頂部の本丸とそれをとりまく腰郭、館の南端を構する土塁

と空堀がよく残っている。館主は葛西

家臣大瓜玄蕃と伝えられているが、確証はない。

▼設置場所Ⅱ南境字館下



真野萱原伝説地

「露む秋の朝氣は遠からで

る堀跡と思われる。都は幾日までの萱原」

という藤原定家の歌で知られるように古来より歌枕として名高い、この片栗

の葦(アシ)は、京の都を思いその方

向にばかり葉をつけると言い伝えられ

ている。

▼設置場所Ⅱ真野字萱原(長谷寺前)

◆水沼古館跡

頂部には本丸と思われる平場と、そ

の下に二の丸、段築が築かれており、空堀跡と思われる掘切がある。

館主は不明であるが、地元の豪

族水沼上野が築いたものと言い伝えられている。

▼設置場所Ⅱ水沼古館跡



石巻市文化財だより(第17号)

昭和63年3月30日 印刷
昭和63年3月30日 発行

発行：石巻市教育委員会
石巻市日和が丘一丁目1番1号
電話（0225）95-1111 内線343

印刷：株式会社 鈴木印刷所
石巻市蛇田新谷地前121
電話（0225）22-4101